

市史講座第5回ミニレポート

8月12日(土)第5回の講座が開かれました。

シンポジウム「城下町形成期の景観復元」

第一部 基調報告 河原荘一郎先生(松江工業高等専門学校教授)

渡邊正巳先生(文化財調査コンサルタント(株)代表取締役・島根大学汽水域研究センター客員研究員)

長谷川博史先生(島根大学教育学部教授)

大矢幸雄先生(絵図・地図部会長)

第二部 パネルディスカッション(司会:西尾克己、パネラー:報告者)



今回の松江市史講座はいつもとは異なり、「城下町形成期の景観復元」というテーマで、基調報告とパネルディスカッションの二部構成で行いました。

第一部では、松江城部会の河原荘一郎先生・渡邊正巳先生、中世史部会の長谷川博史先生、絵図・地図部会の大矢幸雄先生に基調報告をして頂きました。

河原先生は、松江城のある亀田山と峰続きであった宇賀山を切り開いて城下町建設にあてたとする戦前の『島根県史』記事を検証し、現地の調査を踏まえ、ごく一部の城下町に利用されたとされました。

渡邊先生は松江平野について、城下町東部にあった潟湖と花粉分析などから、城下町形成以前の植生と、城下町内で栽培されていた植物の状況を紹介されました。

長谷川先生は文献史料から城下町形成以前の松江の状況について、中世の絵図の残存状況と白潟の町の様子、そして堀尾期の松江城下町・現在の西川津地域の
中世の地名分布と市街地図を比較して、中世の景観を推測されました。

大矢先生は、まず寛永 10 年(1633)の出雲国絵図から、出雲国での低湿地の変化について説明され、その後の状況を文政頃の松江城下町絵図を用いて説明されました。また、海拔 2m50cm のところが低湿地帯との境目ではないかと指摘されました。

第二部では「城下町形成期の景観復元」のテーマでパネルディスカッションを行い、松江城部会の西尾克己先生の司会により、基調報告をされた先生方に松江城下町形成期の景観復元について討論をして頂きました。今後の課題として松江城下町の西部と南部の調査が話題に上りました。また、各々の今後の研究課題を述べられ、パネルディスカッションを終了しました。